

**平成 28 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)
1 対 1 対談 (桑名市) 会議録**

1. 対談時間

平成 28 年 9 月 2 日 (金) 14 時 00 分～15 時 00 分

現地視察 14 時 00 分～14 時 20 分 (20 分間)
三岐鉄道北勢線の乗車・視察 (西桑名～蓮花寺 間)

会場対談 14 時 20 分～15 時 00 分 (40 分間)
在良公民館 2 階 学習室

2. 対談場所

在良公民館 2 階 学習室 (桑名市大字蓮花寺 263 番地 1)

3. 対談市町名

桑名市 (桑名市長 伊藤 徳宇)

4. 対談項目

- 1 地域鉄道の存続について
- 2 三重県及び桑名市の今後の国際観光について
～伊勢志摩サミット及び 2016 年ジュニア・サミット in 三重を終えて～
- 3 小・中学校における国際理解教育の推進について
- 4 「桑名石取祭の祭車行事」のユネスコ無形文化遺産登録について

5. 会議録

(1) あいさつ

知 事

伊藤市長におかれましては、今日はお時間いただきまして、ありがとうございます。また、山本県議それから桑名の各市議の皆さんにもお越しをいただきまして、ありがとうございます。

まずは、先般 5 月 26 日 27 日に行われました伊勢志摩サミットにおきまして、桑名市の皆さんにもクリーンアップ活動や花いっぱい運動、あるいはハマグリなどの食材、あるいは配偶者のティータイムの「はあぶ工房」のシフォンケーキとか、そういう御協力をはじめ多大に御尽力をいただきましたこと、改めて感謝を申し上げたいと思います。

何より、その 1 カ月前に行われましたジュニア・サミットを無事故、大成功で開催していただいたことにも改めて感謝を申し上げたいと思います。多くの県内高校生たちも交流をさせていただき、桑名市のみならず三重県全体の次世代の国際交流という意味で、非常に大きな歴史の 1 ページをつ

くったのではないかと考えております。

現在、伊勢市と南伊勢町で開催しています大学生国際会議や先般の国際地学オリンピック、そういうものにおいてもジュニア・サミットのノウハウなどが活用されたり、今回、国際地学オリンピックで初めて「三重県宣言」を出しましたが、それは地球温暖化問題について出していまして、ジュニア・サミットでまとめてもらった「桑名ジュニア・コミュニケ」を引き継いでいる部分がたくさんあるというようなことで、三重県、桑名市の新たな国際交流の歴史をつくった瞬間だったと思います。本当に、改めて桑名市の皆さんに感謝申し上げたいと思います。

あとは、リオデジャネイロオリンピックでは、バレーボールの宮下選手に活躍をしていただきました。スポーツ栄誉賞を9月4日に、三重県のほうから贈りたいと思っています。

それから、先般8月3日に、桑名市さんは三重県が非常に推している、「イクボス宣言」を市の管理職の皆さんなど多数でやっていただきまして、子育てについても県と連携をしながら、同じ方向性でやっていただいていることにも改めて感謝申し上げたいと思います。

明日から、またさらに桑名市が盛り上がる、そんな企画もあるようですので、また引き続き連携をし、今日は限られた時間ですが、有意義に過ごしたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

桑名市長

皆さん、こんにちは。鈴木知事におかれましては、今日は1対1対談ということで桑名にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。また、日ごろは、桑名市政のために大変目を配っていただきまして、御理解と御協力を賜っておりますことに感謝申し上げたいと思います。また、今日は、多くの傍聴の皆さんにもお越しいただいておりまして、本当に感謝申し上げたいと思います。いろんな形で桑名市を前に進めるために、今後もお力添えを賜りたいと思っています。

先ほどの知事からの御挨拶にもありましたように、今年は伊勢志摩サミットということで三重県が一丸となって取り組みそして成功裡に終わりました。すばらしい機会を知事につくっていただいたことに本当に感謝を申し上げます。

この伊勢志摩サミットで取り扱っていただきました桑名市の商品、大変PRができていまして、今でも、やはり「はあぶ工房」さんのシフォンケーキや、後藤酒造さんはじめこの地域のお酒、かなり売れているという話を伺っておりますし、また、ハマグリの値段も例年になくずっと高値が続いているということでもあります。やはり、これも伊勢志摩サミットはじめ

いろんな形で三重県をPRしていただいているおかげだと感謝申し上げたいと思います。

そして、この4月のジュニア・サミットは、三重県さんに大変御協力をいただいてなんとか成功させることができました。桑名市にとっても本当にすばらしい機会をいただいたということで、私だけではなく桑名市の皆さんがそう思っているのではないかと考えています。世界の人をおもてなしするという経験は今までなかったですし、そんな中で、世界に向けて開かれたまちにしていきたいという思いを持って取り組ませていただいて、本当にいい機会になったと思います。この先に向けていろんな思いもありますので、そのことを、今日は知事ともいろいろお話をさせていただけるとうれしいなと思っています。

それから、少し宣伝をさせていただきたいと思っています。今日は横にもポスターを貼ってありますが、「クハナ！」という映画ができました。まさに桑名市の御当地映画でありまして、今まで、桑名市は、フィルムコミッション事業ということで、60作品近い映画を誘致してもらいましたが、初めて桑名市を舞台にした映画を作りました。明日から公開ですので、ぜひ多くの皆さんに足を運んでもらいたいと思っています。この中に知事も出演をしていただいておりますし、私も出ています。知事は知事役で、私は違う役で出ていますので、見つけてもらえたらうれしいと思っています。本当にすばらしい作品に仕上がっていますので、ぜひご覧いただきたいと思っています。

もう一つは、「桑名ほんぱく」という、「本物力博覧会」というものをこの秋に第1回目を開催させていただきます。桑名のすばらしさを体験してもらおうというところからスタートしていきまして、桑名の本物力を体験できる43のプログラムを御用意しましたので、こちらにも、ぜひとも多くの方に足を運んでいただいて、桑名のすばらしさを体験してもらいたいと思います。知事も「体験の聖地として、三重県を」という話を先日もされていまして、もしお時間があればご覧いただいて、「本物力博覧会」というものを三重県でも広げていただければと思います。

今日は、ジュニア・サミットのためのポストジュニア・サミットということと、そして、我々の喫緊の「ローカル鉄道をどうしよう」という課題でありますので、忌憚のない意見交換ができればと思っています。よろしく願いいたします。

(2) 対談

1 地域鉄道の存続について

桑名市長

今回、一番大事なのはこの鉄道のことだと私たちは思っています。

今日は、先ほど、知事にも北勢線に西桑名駅からこの蓮花寺の駅まで乗っていただきまして、本当にありがとうございました。三岐鉄道さんも「三岐鉄道の歴史に残る機会だ」ということで大変喜んでおられました。エアコンのない列車でしたが少しの時間、鉄道の旅を楽しんでいただけたのかなと思っています。

今、このローカル鉄道は、ご存知のようになかなか大変な経営状況が続いておりまして、桑名市は、この北勢線につきましては、桑名、いなべ、東員の2市1町で支援をさせていただいて、平成14年から、「しっかりと地域の足として残そう」という活動をしています。

そして、もう一つ養老鉄道という鉄道がありまして、これは三重県桑名市から岐阜県の揖斐川町まで、沿線の3市4町で支援をしていますが、知事もご存知のように、近鉄さんが、今の形では難しいということで、昨年、3市4町で合意して、新しいスキームでの支援をしようということで、第3種鉄道事業者となる新法人の設立に向けて、今、準備をしています。財政的にも大変厳しい部分もありますし、また、「多くの人に乘ってもらおう」ということで利用促進という取組も我々一生懸命取り組んでいるわけですが、このローカル鉄道をなんとか頑張らせようとしている我々基礎自治体からみると、三重県さんのスタンスというのは、どちらかというところ、「多くの人に乗る鉄道にはしっかりと支援をするが、ローカルはローカルでやるべきだ」というような姿勢に見えるわけです。三重県としての姿勢といますか、どういうふうに地域鉄道、ローカル鉄道をお考えなのか、まず教えていただければと思います。

知 事

ありがとうございます。今日は、北勢線に乗せていただいて、平日のこういう時間にもかかわらず生活の足、あるいは通学の足としてしっかりと利用されているなど。そして、その利用にあたって、地元の皆さんが大変御苦労いただいている様子を間近に見ることができて、大変いい機会であったと思っています。

ローカル鉄道につきましては、四日市のあすなろう鉄道も同様ですが、例えば財政支援については、基本的にハードの設備を国と協調してやるという、それは全て例外なくそういう形にしています。それは、安全に運行されるということ、広域自治体としてやっぱりしっかりと確保するんだということだと思っています。一方で、運営については、伊勢鉄道のように、県が関与して第三セクターができてというのとはまた事情が違ふと思いま

すので、運営の部分については各事業者の皆さんに任せるといようなスタンスでいます。一方で、利用促進については、さまざまな協議会などにおいても委員として参画させていただいて、最大限の情報発信など協力をともに連携してやっていくという感じです。

桑名市長

特にこの北勢線、養老鉄道だけではなくて、三重県の中には、伊賀鉄道などさまざまなローカル鉄道がありますが、三重県のローカル鉄道の中で、県域をまたいでつながっているのはおそらく養老鉄道だけだと思っています。

その中で、今、3市4町と2県で一緒になって、なんとか支援をしているという形ができてはいるわけですが、財政支援については考え方としてはよくわかるんですが、岐阜県と三重県の考え方はかなり隔たりがあると、我々は非常に感じます。

岐阜県が出資している鉄道ということもあるかもしれませんが、岐阜県は、この養老鉄道にも県の単独の補助という形で財政的支援をしていただいています。三重県側には、そういう支援はないということもあって、実は、私は、3市4町の会議に行くと、「どうなっているんだ、三重県は」ということをいつも岐阜県側の市長さん町長さんから言われています。

そのあたり、財政厳しい状況だと思いますが、例えば岐阜県と同じようなスキームでやっていただけると。特に県をまたいでのローカル鉄道を存続させようと思うと、私たちも岐阜県側にちょっと心苦しい部分もあるんですけど、そのあたりについては、知事はどのように考えられていますか。

知事

今、市長からも御紹介いただきましたように、岐阜県の県単で養老鉄道に出している補助金については、元々岐阜県が出資する第三セクターが運営する鉄道ということで、いろいろな経緯があるので、三重県とはその経緯がちょっと違います。あと、関係市町の数というのも、岐阜県の中で複数あるということとの広域自治体のかかわりであり、三重県内では桑名市さんだけということなので、向こうの県と合わせるということで論理的整合を取るのか、あるいは、同じローカル鉄道として、あすなろう鉄道のときは全くそういう支援をやっていないので、そこと論理的整合性を合わせるのかと考えたときに、我々としては、三重県民の皆さんからいただいている税金なので、やはり三重県内の論理的整合性というのは当然、優先され重視されるべきことではないかなと思っています。

なので、心苦しい気持ちは大いに持っていますし、古田知事からも直接

何回も言われるんですが、そういう経緯のこととか、県民の皆さんの税金をどう配分するかということに優先度を置きたいという観点で、今は国と協調補助をするというスタンスにとどまっているというか、そういう形で考えています。

桑名市長

お金の話でもありますし、なかなか簡単にはいかないと思います。今、県内のほかとの整合性といわれますと、確かに難しいだろうということは私にもわかりますが、県境地域の人たちはいろんな課題があって、我々はたまたま岐阜県とつながっているがゆえにこういう課題が起こっていますので、ぜひ、そのあたりもしっかりと目を配っていただいて、古田知事ともいろんな形で接触してもらえればと思います。

また、今回我々は、第3種鉄道事業者ということで新しい法人をつくろうと思っていますので、お金の面だけでなくいろんな形での支援を、ぜひとも県にお願いしたいと思っています。

その新法人の設立に向けては、これから特に近鉄さんともいろんな形でお話をしていかななくてはならないわけですが、岐阜県側には近鉄が通っていませんので、岐阜県と近鉄のパイプはなかなかないんです。私どもも、これから駅の改修をしようということで接点をやっと持ち始めていますが、やはり近鉄さんとのネットワークが一番あるのは三重県だと思いますので、そういう中でうまく円滑に進められるように配慮をいただければと思っています。

そのあたりはお願いできますか。

知 事

そうですね。7月に設立されました養老線地域公共交通再生協議会、これにも県の地域連携部の副部長が委員として参加させていただいておりますので、その新法人の設立などにあたって必要な協力というのはできる範囲のことはしたいと思います。全然近鉄さんと付き合いがない岐阜県さんがゼロから人間関係をスタートするよりは、三重県が間に入って一緒にやったほうが早いに決まっていますので、そういう面での御協力というのは、できる範囲でしっかりやっていきたいと思っていますし、汗をかけるところはしっかりやっていきたいと思っています。

桑名市長

当然、財政的な支援をしてほしいという思いはありながら、なかなか難しいということもよくわかっていますので、そういう意味では、違う形で

もいいので、今回の新しいスキームがうまく動き出すように御配慮を賜りたいと思います。

それから、利用促進ということで、私たちも、北勢線の利用促進では、啓発用の袋を作成したり、いろんなイベントをして、今、取り組んでいます。

養老鉄道もいろんな取組をしまして、薬膳列車といって、電車の中で薬膳料理を食べるというのをしたり、これは三重県ではないんですが、岐阜県の養老駅ですが、「乗って、飲んで残そう養老鉄道」という、養老駅でビアガーデンを開催して、やはり車ではここまで来られませんから、皆電車に乗ろうということでこういうイベントをしたりして、たくさんの人に乘ってもらおうという取組をしています。定期の人にたくさん乗ってもらうのがベストなのですが、やはり全体的に人口減少が進む中で、定期のお客さんは減ってきています。この北勢線の場合は、この近くの星見ヶ丘地区の住民の方たちのお子さんがちょうど高校生になる頃に定期が伸びたりすることがたまに起こるんですが、基本的には全体的に減少傾向です。そういう中で、定期外の人に如何に乗ってもらうかというのが非常に大きな課題でして、今、そういう取組をしています。

その中で、ぜひ県にお願いしたいのが、県内にいろんなローカル鉄道があって、やっぱり同じように利用促進に取り組んでいるのですが、それぞれが独自に頑張っているだけになっていきますので、これをうまくネットワーク化していろんな形で応援をしてもらいたいと思っています。また、先ほど申し上げた養老鉄道の薬膳列車、この薬膳列車を岐阜県の支援で、本当は5,000円のを半額の2,500円にした結果、運行の回数が増えまし、乗っていただく方も倍増しました。実は岐阜県の財布を使ったわけではなく、岐阜県がしっかりと国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金」、これを活用してローカル鉄道を応援する形で、ここに半額付けていただくということをして、それで、たくさんの方が乗っていただけるようになったというのがあります。

そういう意味では、ローカル鉄道の応援をするというのは、なにも財政支援だけではなくて、こういう形でも私たちにとっては非常にありがたいと思いますので、こういう利用促進についても、ぜひとも三重県のほうで考えてもらいたいと思いますが、いかがでしょうか。

知 事

そうですね。いわゆる地方創生の最初の消費喚起の交付金ですね。三重県では、ジビエや県産材の利用とか、外国人用の旅行券などで使わせていただきましたが、なかなかいいアイデアだと思いました。

利用促進については、この三岐鉄道北勢線とあすなろう鉄道、ナローゲージが全国に3つあって、そのうち一年中運行しているのはこの2つだけなので、ナローゲージの路線数が日本一ということで、この6月から、三重県のホームページの「三重県の日本一」というコーナーに「ナローゲージの路線数 日本一」というのを掲載させていただきました。

あと、観光で、このナローゲージなど県内にある乗り物を徹底的に紹介したガイドブック「みえののりもの」を2万部作成しまして、これは好評のため、さらに2万部を増刷対応して発信させていただいています。

それから、北勢地域の5市5町と連携して、「実は北勢は、列車で巡るのがいいんです！」というので10万部、エリアパンフレットを作って情報発信したところです。

それから、今年1月、2月に、三重テラスで、「岐阜県・三重県共同ローカル鉄道展」と「三重の地域鉄道大集合」と銘打ったイベントを行い、両イベントとも500名の方に来ていただきました。岐阜県・三重県共同ローカル鉄道展は、僕が知事になって最初の岐阜県知事との対談で、両県の若手職員で産業振興のチームをつくっているいろんな取組をやっていこうということでスタートしたものでして、非常にこれはよかったです。

いずれにしても、交通政策という観点だけではなく、観光政策などさまざまな観点から、利用促進に資するように取組を連携して進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

桑名市長

ぜひ、お願ひしたいと思っております。JR東海さんが私鉄と乗り継ぐ切符を作ってくれているのですが、そういうのは三重県が間に入ってコーディネートしていただくだけでこういう取組も進んでいくと思っておりますので、利用促進の部分で、知事の発信力に我々も期待しておりますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思っております。

2 三重県及び桑名市の今後の国際観光について

～伊勢志摩サミット及び2016年ジュニア・サミット in 三重を終えて～

桑名市長

ここから3つは、やはり、このジュニア・サミットをさせていただいて、我々が感じた部分といいますか、これからこういうことをしていきたいと思う部分を、ぜひ県と一緒にやればという部分もありますので、そういう思いでのこのあとの3つの質問になります。

1つ目は、国際観光と言っていますが、初めて国際会議を桑名で開催させていただいて、「これは、すごいことができたな」という思いがある反面、この後、次のMICE誘致のためにいろいろ努力したいという思いを、これは行政だけではなく民間事業者、また、今回ボランティアで携っていたいただいた通訳の方など、いろんな方がそういう気持ちを持っていると今でも感じます。

そういう中で、桑名市としても、ポストジュニア・サミット事業ということで、一つは、国際交流の事業をしようということで、三重大学の朴先生にまたお世話になって、高校生と外国人の方の交流事業を実施します。そして、もう一つは、まさにMICE誘致のための取組としてパンフレットの作成を考えており、この9月議会で予算を上げさせていただいています。この2つの路線で今考えていまして、この秋にジュニア・サミット推進課をなくしますが、その後、組織の改編でこの2つを分けた形の組織をつくらうと思っています。

その中で、国際交流の事業は、今、三重県も大学生の交流の事業などいろいろしていただいていますので、そのあたりと、これから桑名市がやろうとしていることがうまくコラボレーションできないかと。そういうのはできませんか。うまく協調したいという思いがあるということが1つ目になります。

もう一つは、MICEの誘致をするときに、伊勢志摩サミットの発信力が非常に強かったと思うので、世界中の方の目が伊勢志摩にいくのではと思いますが、今回外務省さんともいろいろお話をさせていただきながら事業をさせてもらいましたが、今回のナガシマリゾートのもてなしがすごくよかったし、本当にMICEに資する場所ではないのかと。そういうふうには桑名市も考えてはどうかと言われましたので、ぜひともこの北勢地方も忘れずにとにかく、一緒にやりたいという思いがあるので、そのことについて、ぜひ知事の思いをお聞かせいただきたいと。

それから、MICEなので、Mはミーティング、Iはインセンティブ旅行、Cはコンベンション、Eはイベント、エキシビションというので分かれていて、MICEにもいろいろあるということがあります。今回、たまたまミーティングとかコンベンションなどをさせてもらいましたが、このインセンティブ旅行、そういうものも私たちはMICEだと認識をして取り組んでいるのですが、産業観光にしっかり取り組んで、企業を回っていただきながらここに宿泊をしてもらってしっかりお金を落としてもらいたいという思いを持っています。

知事も、先日、行っていただいたと聞きましたが、エイベックスさんという事業所が桑名市にありまして、こちらは年間2,500人もの外国人の方

に工場見学をさせて、そして、そこからお金をとって収入源にされています。実は、エイベックスさんも、「桑名市を含めて、もっと県内をいろいろ回れると、この産業観光で落ちるお金も増えるし、滞在する時間も長くなる。」と言っていたので、そのあたり、県もMICEの枠組みを広げていただいて、そのようなものも一緒に取り組んでいただけないかと。

大きく3つなんですけど、よろしく願いいたします。

知 事

ありがとうございます。まず、国際交流については、昨年度、伊勢志摩サミットの前の平成27年度に、国際理解・国際交流プログラムということで、G7の各国を中心として、小学校や中学校に行って、小学生や中学生がそのお話を聞いて国際的理解を進めるというのを91回させていただきました。今年度もそれを続けようということでやっています、桑名市では多度青葉小学校と津田学園中学校でそれぞれ、6月ですけども、実施させていただきました。平成29年度以降はどういう形にするかわかりませんが、今回、大学生のサミットもやりましたし、高校生サミットもやりましたし、子どもふるさとサミットもやりました。そういう国際理解と故郷の理解みたいなものを、今回の大学生サミットの最初の話でも言いましたが、自らの国や故郷に対するアイデンティティをしっかりと確立し、多様性に対する寛容さを持つ。この両方がないとやっぱり国際交流はうまくいかないと思うので、そういう意味では、故郷を知るといふことと国際理解において、来年度以降、またいろんな事業を考えていきたいと思っておりますので、むしろ、こういうのはどうかというのがあれば、ぜひしっかりと連携していきたいと思っています。

それから、MICEですが、「なぜ、MICEなんですか」ということを一応一言だけ言いますと、まず、来た人の使う単価が違うということです。観光庁の調べでは、普通、海外の人たちが来た場合の観光では、1人あたりの平均消費額が約14万円、MICEで来た人の場合は約30万円なんです。それから、もう一つは、結構重要なことは、景気に左右されにくいことです。MICEの国際会議などは何年も前から決まっているので、「この日にやります」ということを前から決めるわけですね。だから、急に円高になったから旅行に行くのをやめるとか、そのような景気の動向に左右されにくいということで、安定的な消費や地域への資金循環に資するというので、MICEは大事だと思っています。

桑名市は、特に外国人が好むようなビジネスホテルなどがたくさんありますし、名古屋から近いという優位性もありますし、あと、市民会館をは

じめとしたホールなども充実していますし、六華苑などを含めたいわゆるユニークベニューもたくさんありますので、県内においても相当、MICE、国際会議などについて優位性のある場所だと思っています。

我々もいろんなMICEの誘致を進めており、例えばこの後、環境に関する国際会議は四日市でやる予定で、この9月にやる女性活躍のフォーラムは鈴鹿サーキットでやる予定にしていますので、県全体でいろんな形でやっていきたいと思っています。

MICEというと大きな会議というイメージが結構ありますが、今の世界の国際会議の動向は過去最高の数になっていますし、日本での開催は過去最高になっています。一方で、250人未満という会議が6割になってきていますし、大きなコンベンションホールではなく、大学やホテルでやるケースが6割になってきています。まさにそういう意味では、桑名とか三重県でやりやすい時代が来ているのではないかと思っていますので、そういう国際会議の誘致などを連携してやっていきたいと思えます。

それから、インセンティブ旅行、これは本当に重要で、とりわけエイベックスさんなどは一生懸命やってくれていると思います。これについても、さっき言いましたように、使うお金の単価が多いですし、安定的に確保できます。また、その後の産業交流などにつながっていく可能性が高いです。例えば「ドイツの企業の幹部の、『対前年比で利益が10%ほど上がったので御褒美旅行』みたいなことで来てもらって、せっかくだからということで、その自動車関係の桑名の工場を見てもらって、桑名でおいしい物を食べてもらおう」というようなことは非常にいいと思います。コンパクトにもものづくりの強みもある場所ですから、そういうインセンティブ旅行に向いていると思いますので、ぜひ積極的に展開をしたいと思えます。

先般、6月に北京に行って旅行会社の人とお話したときも、そういう産業系の視察を兼ねた旅行が、中国でも最近、非常に流行っているということだったので、積極的に連携して、その実現に向けて取り組んでいきたいと思えます。

桑名市長

ぜひ、やっていただければと。私の個人的な体験でMICEは大事だと思っているのは、消費額が違うというのを目の当たりにしたことがあって、私、落選中に生命保険の会社で働いていたんです。その生命保険会社では、上位8%とかそういう人たちは会社のお金でハワイへ行ってそこでコンベンションをするというのがあって、僕も選ばれたんです。上位8%に入ったんです。それで、ハワイに行って、その保険会社がヒルトンを貸切でどんちゃん騒ぎをするんですけど、そういう中で使う額が全然違うんですよ

ね、そういうのに来る方というのは。私の仲間でも、ラッセンの絵をその場で60万で買うとか、そういう人を初めて見ました、僕の人生で。

国際的な会合とかに行くと、やっぱり気持ちも緩んで、所得の高い人はそういうことをするというのがあります。いろんな意見があるので、MICEはどうかという意見もあるかもしれませんが、僕は、絶対地域にとって大きいと思いますので、これを一緒にできたらいいなと思っています。

それから、エイベックスさんも、一緒にその産業観光、インセンティブ旅行にしっかり取り組もうとしているのですが、その中で私たちが本当にうれしいと思うのは、ジュニア・サミットのときに通訳のボランティアで応募してくれた方が55人ぐらいおられて、今、その方たちがこのMICEや国際観光、インセンティブ旅行のときにぜひ協力したいといって「桑名市国際観光通訳ボランティア連絡会」という新しい組織をつくってくれました。この方たちも非常に今、積極的に取り組んでくれてありますし、知事がおっしゃっていた、「アイデンティティを確立しながら寛容な気持ちを」というのを、ジュニア・サミットでまさに彼女たちに感じていただいて、「石取祭はすごいんだ」と思っていたきながら外国の人をうまく迎えるというのを感じていただいたと思います。我々もしっかりとこの方たちと一緒にやっていきたいと思ったり、県のほうでもぜひ、そういう組織がありますので、ぜひいろんな形で覚えておいていただければと思っています。

3 小・中学校における国際理解教育の推進について

桑名市長

「国際理解教育の推進」ということですが、私が思ったのは、やはり、よりコミュニケーションがとれる人材が地元に必要なということです。

例えば川越高校とかで昔は英語科だったところが、今は国際文理科になって、かなりレベルも上がっていると思います。確かにそれは素晴らしいことで、そういう子たちは頑張ってもらえればと思いますが、やはりその子たちは、どちらかという流出してしまう人材になるのではないかと。戻ってきたその子たちの受け皿がなかなかつくれていないというのがありますので、ここの地域に残る子たちの語学力を上げたいという思いがあります。

小学校などでイングリッシュキャンプも我々もさせてもらったり、県も取り組んでいただいたりしていますが、高校でそういう学科があればいいなと思っています。具体的には、桑名西高校に英語科みたいな、例えば国際コミュニケーション科みたいな、しっかりと話せて、それこそいろん

な方を寛容に受け入れるような、そういう人材を育てる学科をつくってくれないかなと思っていますが、その辺は、知事、いかがですか。

知 事

はい、ありがとうございます。我々としては、科を決めてその高校のレベルだけを上げるよりは、もう全ての高校で英語力を上昇させるというように思いますが、高校ではもしかしたら遅いかもしいので、むしろ、市町教育委員会と一緒に小中の英語力や英語授業の改善により力点を置いたほうがいいのではないかと考えています。さっきの英語キャンプなどを、今回は分離してやっていますが、一緒にやってみたり、例えば全中学校を対象に教員研修でCAN-DOリストというのをやっていますが、こういうのも100%ちゃんとやるとか、あと、中学校の「郷土三重を英語で発信！ワン・ペーパー・コンテスト」の応募数を増やすような取組ができないかなと思います。

ということで、全ての高校の英語力の向上と、それでは遅いかもしいので、市町教育委員会と連携した小中の英語力の向上に力点を置いたほうがいいと思っています。科を再編するのは、子どもが減っているので、何かとスクラップアンドビルドになる可能性がありますし、地域のニーズを踏まえる必要があるので、そこはむしろ地域の皆さんとよく話し合うべきだと。そんな感じです。

桑名市長

スクラップアンドビルドでも、普通科をなくして国際コミュニケーション科などをつくってくれるといいなと思っています。やはりエイベックスさんを見ていても、1人いればいいんだと。各企業にそういう方がうまく張り付けるような、そういう人材が欲しいなというのが我々の思いです。実際、やはり小中はこれから指導要領が変わったら、もう英語は当たり前みたいになっていく部分はあると思いますが、その中で、この子たちだったらインバウンドの受入れや外国人の観光の受入れもやりやすくなるという人ができるといいなという思いを持っています。

これで、3つ目を終わります。

4 「桑名石取祭の祭車行事」のユネスコ無形文化遺産登録について

桑名市長

せっかく今日はポスターも貼りましたので、ユネスコのことをぜひお願いといたしますか。

この11月28日から12月2日にエチオピアのアジスアベバでユネスコの会議が開かれて、おそらくそこで「山・鉾・屋台保存会」で登録されている33のお祭りが登録されると思います。

これは桑名市の石取祭保存会さんと市民の方、我々も一生懸命頑張っているのですが、どうも横のネットワークが弱いというのもあって、せっかく四日市の鯨船さんとか伊賀のだんじりさんとかもあるので、ぜひうまくつなげてもらって一緒になって県で盛り上げてくれればと思っています。

ちなみに、愛知県では、県と関係する6市町で共同のパンフレットも作られているのですが、三重県では、3市の中でもちょっと温度差があったりして、お祭りの規模もあると思いますが、まだうまくそこが取り組めていないのでぜひお願いしたいと。

また、桑名が、いかに外に向けての意識をしているのかというのをご覧いただきたいと思います。これは平成19年ですから、国指定の重要文化財になったときのポスターです。これまでは、ずっと写真コンクールで優勝した人の写真を使ったポスターだったのを、ここから世界に向けて広げていこうということで、デザイナーをちゃんと入れて、外に向けて発信するようなポスターにどんどん変えていって、ものすごく格好よくなっていっていると思います。桑名の石取祭保存会さんはかなりそういうところに意識を持っているので、ぜひ、県もそういう意識で外に向けて、知事が海外でプレゼンする際にもいろいろお使いいただいていると伺っていますが、いろんな形で発信してくれると大変うれしいと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

知 事

はい、ありがとうございます。今回登録をされると三重県としては初めての登録になりますので、登録が決まれば、桑名市、四日市市、伊賀市と連携して、まずは三重テラスで「ユネスコ無形文化遺産登録記念『三重県内の山・鉾・屋台』パネル展」をやりたいと思います。その後、県内3カ所でパネル展をやりたいと思います。併せて、三重県総合博物館で、その登録記念のパネル展をやって紹介をしたいと思っています。あと、今、この3つの祭の魅力を紹介するための、日本語と英語テロップ入りの動画、「三重の山車祭」というのを作ってしまして、この動画をパネル展に合わせて紹介したり、ホームページやYouTubeなどに入れて、その魅力を発信していくことを考えたいと思っています。

併せて、今、桑名の石取祭保存会の方がやっただけで、小学生対象の「ユネスコ無形文化遺産登録記念体験講座」、これも県の補助事業

として採択させていただいて、支援をしています。

いずれにしても、せつかくの登録の機会ですから、一緒になって情報発信したいと思います。

桑名市長

ありがとうございます。登録するときには3市の市長と知事で、「登録おめでとう」というのができるといいのかなと。でも、ちょっと時差があつてわからないみたいで、できないかもしれないんですが。知事がしっかりと発信していただけると、石取祭も世界に向けて発信できますので、ぜひとも、そのあたりよろしくお願ひしたいと思います。

(3) 閉 会

知 事

今日は、伊藤市長、ありがとうございました。喫緊の課題そして地域の皆さんでこれまで協力して全力で取り組んでこられた地域鉄道の問題、それから、ジュニア・サミットという新しい歴史を踏まえて、あるいは、ユネスコの無形文化遺産登録という新しい歴史を踏まえて、桑名市の新しい一歩に向けた連携の確認などができたと思います。本当に桑名市にはいい素材がたくさんありますし、世界的に評価されるものがたくさんあると、僕もサミットでもジュニア・サミットでも痛感しましたので、ぜひ、市と連携してやっていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひします。

今日は、どうも皆さんもありがとうございました。